

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科 等)	専修大学 ネットワーク情報学部	実施時期	2013年度 前期 (後期) (赤字は更新情報)
対象学年・学期・人数	2～4年次・後期・36名		
講座名	「システムエンジニア論」		
連携企業・団体	一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	<p>専修大学の教育理念として「社会知性の開発」を標榜しており、在学中からできるだけ社会の状況を学生に学ばせるために導入した。本学では2007年度に導入し、受講者は通算396名に上る。またこの講座は県内10校以上の大学でも実施されている定評のある講座である。</p>		
連携の狙い、目的・目標	<p>リーマンショック以降、欧米先進国では金融危機や財政破綻の危機が現実化してきている。また日本では東日本大震災やタイの製造拠点の浸水などで景気の悪化が懸念される。その結果として国内ではこの数年、新卒学生の就職率が極めて低下している。アベノミクスで一時的に求人は回復しているようであるが、オフショア開発の趨勢は、より人件費の低い国へ向かって、今後も強まると思われる。そのような社会情勢において、学生が少しでも社会へ出て行きやすい環境を形成する。講座の目標として、SEとして必要な一連の業務の概要を把握し、起きうるリスク等への対処方法を学ぶ。</p>		

連携にあたっての課題・懸念	学生にとって在学中に社会の実状を学べる有意義な講座であるが、毎年申請更新が必要で継続性が明確ではない。大学との間で一定期間の契約を結ぶことができればその間は継続が保証される。
講座の位置づけ 既存講座との関係	当学部では SE として就職する学生が多く、社会で実務を行う準備と考えられる。 本学では「企業研修」(3 年次 2 単位)という科目を実施している。この科目はキャリアデザイン及びマナー講座を含む事前講義に続き、夏期に企業におけるインターンシップに参加することにより単位認定を行う。一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会会員企業には、長年インターンシップを受け入れていただいている。
履修前提条件	1 年次専門科目 18 単位以上、内必修科目 16 単位以上
授業準備と実施の体制	一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会から認定された講師が、経験や事例を交えて SE の実務に関する講義を行う。講座担当教員は導入講義、資料の印刷・配布、出席管理、課題採点、試験問題の作成・採点・評価、資料を pdf 変換してオンライン講義支援システムに載せるなどの業務を行う。情報機器・音響機器等の準備設定は大学の授業補助員が担当する。
成績評価の方法	12 回のレポートと試験により、SE に必要な一連の業務を把握したことを評価する。 ①初回と最終回を除く 12 回のレポート各 5 点 × 12 回 60%、 ②期末試験 40% 上記計 100%

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ=90分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	講義:01(ガイダンス) 90 分 ①社会知性の開発と講座の狙い(60 分) ②情報サービス産業について(30 分)		大学教員 SE 講座講師
	講義:02(SE とは)(80 分) 講義導入とコメント(10 分)講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
	講義:03(SE のマネジメントスキル) 講義導入とコメント(10 分)講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
	講義:04(情報システムの企画と提案) 講義導入とコメント(10 分)講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員

講義 : 05 (システム設計の概要) (80 分) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 06 (システムテストと運用テストの意義) (80 分) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 07 (情報サービス産業界の現状) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 08 (データベースの知識) (80 分) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 09 (ネットワークの知識) (80 分) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 10 (情報セキュリティと個人情報保護) (80 分) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 11 (プロジェクトマネジメント) (80 分) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 12 (SE のベーススキルと関連知識) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 13 (特別講義、システム化事例紹介) 講義導入とコメント(10 分) 講義評価用紙記入	レポート作成 (講義時間外)	SE 講座講師 大学教員
講義 : 14 (授業全般の総括とまとめ) 講義導入とコメント(10 分) (講義 : 15 (解説と試験) は大学側で実施)		SE 講座講師 大学教員

演習・実習の内容 必要なマシン環境等	本講座を実施するため下記の機器が必要である。 ①マイク・アンプ等の音響機器 ②パワーポイントによる講義を実施するためパソコンとプロジェクタなど映像設備 ③資料配布のための印刷機 ④pdf 化された講義資料を受講者にオンライン講義支援システムで配付するサーバなどの情報施設
-----------------------	---

2. 講座実施後の情報

受講者の声(受講目的、修得目標)	既に内定を得ている 4 年次生は、システムエンジニアには実務上どのような知識と技術が必要か、一連の講義を通して把握する。3 年次生は、就職活動の前提知識として業界の知識や実務の知識を経験豊富なエンジニアから学ぶ。
受講者の感想(本講座で得られたもの)	4 年次学生は、就職活動を通じて企業の方や OB などを通じて SE の実像に関しての情報を得ており、イメージに大きな変化は無いと答える学生が多い。しかし受講したことによって、より詳細がわかってくる場合が多い。例えば、顧客の教育や運用などの業務も非常に大切であることがわかった、長年の経験によるマニュアル化できないノウハウなどの重要性を理解した、責任が重く厳しい面もあるが、システムを完成することにより、やりがいや喜びを感じることができ自分を成長させることができることを学んだ。技術のみならずオールマイティな能力を要求されるなど、SE の細かい仕事内容に関して理解が増した。3 年次学生の場合には、イメージが大きく変わったと答えるものが多い。PC と向き合っている時間が大半を占めると思っていたが、お客様の要求やプロジェクトチームの打合せなど、人と向き合う仕事が多いことを理解した。人と関わるコミュニケーション能力が大切であることを理解した。3K などという話を聞いていたが、テストを確実にを行いバグの早期発見をすることにより、3K なども防げることを知った。そのため SE に対する興味が増した。理系の人間だけでなく文系出身者にもできる仕事であるが、技術的な面も勉強する必要があることを学んだ。
先生の評価	本学では教育理念として「社会知性の開発」を掲げている。「社会知性」とは、「専門的な知識・技術と、それに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理感をもち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」と定義される。社会知性の開発には、大学の講義で得た専門知識や技術を習得した上に、社会との密な関わりを持って産官学連携の教育を推進することが重要となる。すなわち、大学教員による一般の講義によって基礎的な知識を獲得した上で、インターンシップなど社会において、あるいは産学連携組込演習のように社会と連携して一つ一つの事例としての体験を通して、実践に基づいて、理解を深めてゆくことを意味している。一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会提供の SE 講座は、20 年から 30 年以上という実務経験豊富な講師によって、実体験や実務に基づいた内容を講義していただけるため、「社会知性の開発」という本学の教育理念

	<p>にそった大変有意義な講義である。当学部では Project-Based Learning の考えに基づき、必修のプロジェクト演習を 3 年次に配置している。この講座を受講することにより、プロジェクトマネジメント（人的資源管理、スケジュール管理、リーダーシップ、コミュニケーション等）、QCD（品質、コスト、納期）、リスク管理などの重要性を学ぶことにより、学生が自主的にプロジェクトを実施・推進する際に資するところ大である。就職環境が厳しい現代において、社会の実務の状況を事前に学生に伝え、自分のキャリアを考えさせる大変良い授業である。</p>
<p>企業・団体による 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報サービス産業に対する間違ったイメージや偏見を是正し、業界の姿を正しく伝える、という目的はかなり実現してきていると思われる。 ・本学では大学の「社会知性の開発」という理念の展開として本講座を位置づけている。 ・本学には「プロジェクト演習」が 3 年生の必須科目としてあるが、現状では本講座との連動は殆んど考慮されていないと思われる。今後、両者を関係づける余地があるかどうか、1 つの課題として考えたい。 ・本講座の「業界の話」や講師の経験談は興味を持って受講されているが、学生個々の就職活動との関連は希薄な印象を受ける。この点も今後の課題として受け止めたい。
<p>今後の展望 (継続に向けた課題)</p>	<p>世界経済の状況は大変厳しく、今後就職活動は学生にとって益々厳しくなっていくことが予想される。このような社会の状況において本講座は、経験豊富な SE から直接実務について講義を受けることができる貴重な機会である。今後継続を希望するが、契約方法、継続条件などを大学と検討する必要がある。</p>

3. 支援企業・団体からの情報（神情協記入事項）

提供教材・コンテンツ情報	講座名称：大学向けSE講座 講義形式：SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会 (会員企業の認定講師)	費用 (標準価格)	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記：SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義：01(ガイダンス) 講義：02(SEとは) 講義：03(SEのマネジメントスキル) 講義：04(情報システムの企画と提案) 講義：05(システム設計の概要) 講義：06(システムテストと運用テストの意義) 講義：07(情報サービス産業界の現状) 講義：08(データベースの知識) 講義：09(ネットワークの知識) 講義：10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義：11(プロジェクトマネジメント) 講義：12(SEのベーススキルと関連知識) 講義：13(特別講義、システム化事例紹介) 講義：14(授業全般の総括とまとめ)		

<p>企業・団体からの 推薦コメント</p>	<p>神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。</p> <p>講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため 13 名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。</p> <p>講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。</p> <p>この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。</p>
----------------------------	---